

2018 年度春の大セミナー

5th C++5 番テーブル 総評

順位

- 1 位 菅原（3）武蔵
- 2 位 武藤（3）立教
- 3 位 牛山（2）成蹊
- 4 位 藤田（2）青学
- 5 位 永倉（2）青学
- 6 位 田近（2）早稲田

① 選定理由 及び リフレクション

文責：石橋 MESA（4）

1 位菅原（3）武蔵

他人からの補佐が必要な場面もありましたが、常にオピニオンプレゼンターとしてテーブルをまとめようとした姿勢を評価しました。具体的には常に C でテーブルの見解を統一し続け、コンスタントな S が提示できていました。アッセンに向けては、テーブルの為にも質の高いトリートメントを身につけられているといいと思います。ケースを頑張ってください！期待しています！

2 位武藤（3）立教

テーブルに自身の論点を積極的に提示していた点、コンスタントな介入を評価しました。ナローでは「教育論題」とはそもそも何を話すべきか、というダウトは最終的にテーブルでの影響が低かった点が、内容が面白い分、非常に惜しく感じました。しっかりと事前に準備してアッセン望めば、もっと伸びるともいました。武藤君らしい、素直なディスカッションスタイルでぜひ活躍してほしいです。

3 位牛山（2）成蹊

介入量は多くはありませんでしたが、C の質が高く議論停滞の際に全員の理解統一に貢献していた点を特に評価しました。周りの反応を気にしながら議論をしているように感じました。議論は自分の発言を人に聞いてもらい、納得してもらい、初めてテーブルでの存在価値がでると思います。2 年生ながら実力はあると思うので、あとはどれだけみんなに魅力的に思わせるか、それができると今後非常に活躍できると思います。個人的な意見ではありますが

が、まずは自分をほめてあげてください。そして自分に自信をもってください。アッセンでは、堂々と発言している姿を期待しています！

4位藤田（2）青学

アーギュメントの提示を評価しました。しかし、議論された時間は少ない事が惜しく感じました。アーギュメントをする際には、時間配分に気をつけるとさらに質の高いものになります。せっかく準備してもってきたアーギュメントを時間がなくてできなかつたり、すぐに流されたりしないためにも、出来るだけ他の人の介入を早く終わらせどれだけ自分の話す時間を作ってもらえるかが重要です。トリートの質向上もがんばってください。個人的には、藤田さんの、テーブルの停滞をなんとか解消しようと心みる自然なトリートをする姿勢が印象的でした。今後はぜひ、自分のトリートで 100%動かせるようにがんばってください。もっともっと楽しくなると思います。

5位永倉 （2）青学

アーギュメントの提示を評価しました。3位との差は僅差です。アーギュメントを通して何がしたかったのか、を考えられると2年生の中でも差をつけられると思います。どうしたら自分のしたい話をしたいのか、ぜひ考えてみてください。永倉君も人の事を気づきかいてやるやさしさが印象的でした。だからこそ、「PDD において」優しいディスカッションは何なのかをもう一度考えてみてください。1年後に、後輩を引っ張っていける先輩になってください。期待しています。

6位田近（2）早稲田

Sの提示やQの介入を評価しました。4位から6位は非常に僅差でした。採点上このような結果にはなりましたが、順位をあまり気にしないでください。順位の理由としては、会話の浸透率が悪く評価できないものが多くあったからです。アーギュメントの流し方などはよくプレパしていることがうかがえました。今回のテーブルでは、粘り強く伝える事が重要でした。どれだけ正しくても、どれだけジャッジが理解できても、テーブルメンバーが理解しなければ評価できないので、私自身歯がゆき気持ちでした。この悔しさをばねに、ぜひ万人受けするディスカッサントになってください。

6人のこれからの活躍を、こころから応援しています！

文責：近藤友香里

② 議論の流れ

【Narrow】

武藤の educational issue とは何かという質問から始まり、そこから education とはというものを consider しようという S が出たが、まだ OP が決まっていないということもあり、S は通らなかった。

【OP vote】

OP には菅原・牛山の 2 名が立候補し、いくつかの質問を経たうえで菅原が OP に決まった。

【Problem, Harm】

Problem が始まる前に藤田による、AD を取るまでに OP がしたいことは何かという質問から始まり、Problem や Harm にて藤田・永倉・武藤を中心に QA が続き、Harm の最後で武藤が今日の TG は学校に行っているかという質問があり、OP は義務であるため学校に行っているという回答をし、SOH へ移動した。

【SOH】

ここでは武藤・藤田・永倉の 3 名がアーギュメントを提示した。そこで藤田が自分のアイデアは武藤のアイデアと似ているため、combine したいと発言し藤田自身はそれでいいのかという話が始まった。しかし、OP の菅原によるとりあえず 1 人ずつ examine をしようという提案から、武藤・藤田とはアイデアの違う永倉のアイデアから examine が始まった。

永倉のアイデア：生徒は BOE に CP を受けていることを申告しないため SOH がない。
→OP の菅原によるアイデアプレゼンターはなぜ SM が serious ではないのかという質問から、そこが OP の自分と crash しているという発言から、菅原が way to talk を提示し、永倉が DA で出すといい、終了した。

武藤のアイデア：生徒は mind comparison をしており、CP を受けているにも関わらず学校に行くということは生徒自身が + > - と考えた結果であるため、SOH がない。

→初めに菅原により、VP:生徒で Harm が serious であるかどうかを確認するところであるから SOH はあるというアプローチがあったが、武藤は生徒が mind comparison をした結果学校に行くことを決めたということは自分で serious と思っていないということだという返しによって、話は続いた。

その後、牛山が OP は SOH で何をしたいのかという質問から始まり、菅原により生徒は other way to avoid CP を使わないのに、どうして serious ではないのか、mind comparison は人によるから All を証明してほしいという burden があった。

田近により、何が言いたいのかという質問が飛び、菅原による人によって違うというのは、それを言うと QL comparison が使えなくなるという発言があった。菅原がそれに対して、

ディスカッションでは何かを pick up するため問題ないという返しがあり、話が続いた。話が収集しないうちに、牛山がなぜ生徒は mind comparison をするのか、CP によって生徒は十分な教育を受けてないというような exception があるため武藤のいうことは All ではないという発言によって、武藤がじゃあそれなら Narrow TG をして、今日の TG を小学生だけに使用という suggestion をし、OP の菅原がそれを認めたため、TG の定義が変わり、SOH が認められ武藤のアーギュメントが終了した。

藤田のアイデア：生徒は若く、CP を受けることがいやというより、悪さをしたいという気持ちが勝つため、SOH がない。

→菅原の get CP<motivation to do bad action じゃない場合も存在すると思うという発言により、examine せずに藤田が exception を認め、藤田のアーギュメントが終了した。

【C-P Linkage】

ここで武藤によりアーギュメントが提示された。CP をするという事は、教師の教育する能力の不足ということであるから、C-P Link がないというものだったが、武藤自身により、もし APA 教師が CP を使うことができなかつたらとても大きな DA が生まれるから、今ここで Add cause をしたいという suggestion に変わった。しかし、OP の菅原はそれを認めず、OP の stance を否定しないといけないという burden を与えたため、武藤は DA で話すという stance に変更した。

【NFC】

藤田による BOE が CP を隠ぺいするため NFC がないというアーギュメントの検証途中で時間によりディスカッションが終了した。